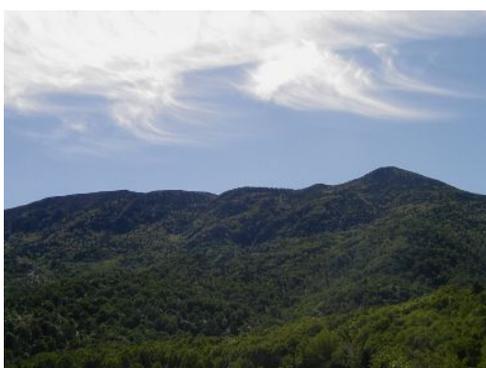


6月の中旬、新緑ラインは漸く志賀高原の最高峰裏岩菅山(2341m)迄上って来ました。6月12日に志賀高原植樹祭、6月13日には志賀高原新緑祭が大勢のお客様にご参加頂き夫々盛大に開催されました。いよいよ夏の志賀高原の始まりです。



当館(おうど色)と一の瀬ファミリースキー場・タンネの森スキー場



岩菅山・裏岩菅山(左)



一沼



表志賀山(右2035m)・裏志賀山(左2045m)



一の瀬より北アルプスを望む(左下が長野市)



小雑魚川



小雑魚川に建つ岩魚天然産卵場・岩魚原種保存区の標柱



春の山菜のシンボル竹の子(ネマガリダケ)の時期となり、竹の子の生焼き・てんぷら・さばの水煮缶(何故か美味です)が入った煮物等々が料理メニューを飾ります。お蔭様で、春の山菜料理を目的のお客様が毎日数十名様ご来館頂いております。

一の瀬の歴史1-2

河川の汚染は小雑魚川だけではありません。一の瀬より早くから開発されていた発哺、高天ヶ原、川原小屋、蓮池、丸池の近くを流れる横湯川や熊の湯、サンバレーの近くを流れる角間川も小雑魚川同様に汚染の度合いが強くなり始めてましたが、幸いにも、排出される汚水量に比して川の水量が多く、一般浄化槽で十分とは言えないまでも、小雑魚川程深刻に考える所までは至っていませんでした。

昭和49年には、河川の汚染や農薬問題は全国的な環境問題となっていました。志賀高原でも、地獄谷の猿に奇形が出て、一時は28%に達し、えさの輸入大豆等も問題となりました。小雑魚川に棲む岩魚たちに奇形が出始めたのもこの頃です。そして小雑魚川に岩魚の姿は見えなくなりました。

この頃、焼額山で財産区の山林管理をしていたYさんは、志賀高原漁協の役員も兼務する所となり、小雑魚川の汚染を食い止め、元の清流に戻すための方策を考え、いよいよ実行する運びとなりました。

汚染の原因を究明し、その元を断つ。

Yさんは原因を化学的に調査する所から始めました。当時、小雑魚川に排出されていた汚水のBOD(生物化学的酸素要求量)は500ppm、瞬間的には1000ppmを超えるという驚異的な数字でした。

(参)BODとは、水中の生物が酸素を取り込み有機物を分解して気体にし水をきれいにしますが、その時に必要な酸素の量をいいます。数値が大きい程水は汚れており、水の汚染度を表す指標で、一般生活排水は200ppmといわれています。

続く

次号へ